

## 運営推進会議開催報告書

開催日時 令和5年9月	
参加者	議題
利用者様 1名	・事業報告 ・個別訓練の取り組みについて ・歩行分析アプリ ・個別訓練事例紹介 ・ヒヤリハット ・質疑応答
利用者家族様 1名	
学職経験者 1名	
市職員 1名	
地域包括支援センター 1名	
看護学生 1名	
事業所 1名	
会議録	
1. 開会の挨拶	
2. 会議参加者 自己紹介（7人参加）	
3. 事業報告 曜日別利用状況 利用介護度別人数	
4. 事業所の特色についての説明	
5. 歩行分析アプリについて （別紙参照）	
6. 個別機能訓練の実施状況 改善事例の紹介（2件） （別紙参照）	
7. ヒヤリハット（3件）	
8. 質疑応答、感想など	
地域包括支援センター様 歩行分析アプリは全員の方ではないとお聞きしましたがどの様な方を対象にされてい	

ますか？

事業所

3か月ごとに体力測定を全員しています。その中に4m歩行の測定で歩行状態が悪い方や歩行速度の遅い方などを対象にしています。

包括支援センター

現在歩行アプリで計っている方は何人くらいおられますか？

事業所

現在20人です。6か月～1年毎に計測しております。

肉眼による歩行能力の変化が認められなくても計測によって詳細に評価することでより早期に変化を見つけることができます。そのパラメータ（速度・ふらつき等）に応じて運動内容を工夫し身体機能の低下を防ぐことができます。

包括支援センター様

測定結果はご本人様に渡されていますか？

事業所

基本は事業所で保管をしていますが、欲しいと言われる方には渡しています。

前回と比べ写真もある為、ご自身の変化を比べることが出来るため、とても喜ばれております。

学識経験者

AIによる歩行解析はとても有意義なことと思います。歩行のどの要素が低下しているか理解できることで、どのような身体機能低下にリハビリしていくかが明確になりますし、歩行の観察に不慣れなスタッフの教育にもつながり、歩行をどの観点で、どのように観察するか能力アップが期待されます。より早期に歩行機能の低下を見つけ、それに対する取り組みがより早く行えることで歩行機能を維持しやすくなると思います。

市職員様

アプリで計測される方は介護1くらいの方が多いですか？

学識経験者

歩けないと計測できないですね。歩行器など使用されていると計測は難しいです。

基本は一人で歩ける方、杖や介助により歩ける方です。

包括支援センター様

介護の方だけではなく支援の方も指先訓練などその方に合うように作って頂いたり、半日なのに個別でやって下さるのでございます。ありがとうございます。

学識経験者

石田店は集団でマシントレーニングに取り組む形態ではないので、個別訓練が比較的時間の余裕をもって行えるためやりやすいですね。

包括支援センター様

今日いろいろお聞きしリハビリをやりたいと思われる方をご紹介したいと思いまし

た。

事業所

よろしくお願いします。頑張って運動してもらいます。

利用者 K 様家族様

自宅ではほとんど動かない為、デイに来て運動をして動いてもらうだけで助かってます。

事業所

利用初めのころはご自身の中でルーティンが終わるといくら声掛けしても動かれませんでした。毎回、声掛けし少しずつ運動量が増えてきました。TRX 運動やストレッチ、脳トレ体操、平行棒内歩行、階段昇降訓練などしっかり行ってもらえるようになりました。時々ですがおやつタイム後に、お皿やカップを重ねて下さるようになってきましたがご自宅では何か変化がありますか？

利用者 K 様家族様

自宅でも食べた後に食器を重ねシンクまでもっていくようになりました。

事業所

デイサービスに通われ、少しずつ家で変わられとてもうれしく思います。今後も続けてもらえるといいですね。

事業所

ヒヤリハットがあった場合は、今後も職員で話し合い事故に繋がらないように努めていきます。

## 9. 閉会の挨拶

次回の運営推進会議は令和6年3月を予定しております。